

都立武蔵野中央公園の整備計画 答申

1	所在地	武蔵野市八幡町二丁目、緑町二丁目地内			
2	都市計画	当初告示	昭和 50 年 2 月 28 日	種別：総合公園	計画面積 10.1ha
		変更告示	平成 25 年 3 月 4 日	(区域の追加)	計画面積 11.2ha
3	整備計画	東京都公園審議会諮問・答申 昭和 63 年 6 月 21 日			
4	開園	開園年月日	平成元年 6 月 1 日		
		開園面積	10.1ha		
5	今回計画対象面積	拡張区域 1.1ha			

6 整備計画の概要

(1) 公園区域の概要

武蔵野中央公園は武蔵野市の北部、J R 中央線三鷹駅の北約 1.5 キロメートルに位置し、周辺は市役所や大規模な団地の立ち並ぶ市街地である。

本公園は大きな原っぱとスポーツ広場を中心とした総合公園で、計画面積 11.2ha のうち 10.1ha を開園しており、地域の防災の拠点としても位置づいている。

(2) 計画区域拡張までの経緯

武蔵野中央公園は、旧中島飛行機の工場跡地で、戦後米軍の宿舎として使用されてきたが、昭和 48 年に日本に返還された土地の一部である。

東京都は、返還用地の公園化についての強い地元要望を受け、昭和 50 年 2 月に計画面積 10.1ha の総合公園として都市計画決定した。

公園計画に対する市民の関心は高く、市民要望を武蔵野市が取りまとめ、計画への市民意見の反映や、本整備までの間の暫定開放などが要望された。

これを受け、都が昭和 51 年に取得した 7.7ha の用地と、国有地 2.4ha を昭和 53 年より、武蔵野市の管理のもとに、自由に利用できる草地広場として地域の人々に開放した。

このことが現在の「原っぱ公園」といわれる自由広場を中心とした公園計画に結びついている。当初整備計画における整備の基本的な考え方は下記のとおりである

ア	計画地は緑のネットワーク構成上重要な位置にあり、これに配慮した計画とする。
イ	計画地は大規模な草地があり、通称原っぱ広場として地域住民に親しまれている。このため草地を活かした計画とする。
ウ	軽スポーツや健康志向を踏まえ、これらのニーズに対応した計画とする。
エ	災害時の避難場所としての機能およびコミュニティレベルのレクリエーション機能も考慮した、総合的な公園として計画する。

【東京都公園審議会（昭和 63 年 6 月 21 日）】

公園は平成元年 6 月に完成し、スポーツやレクリエーション機能の充実した「原っぱ公園」として、地元の市や住民に広く定着している。

その後、平成 25 年 3 月に「水と緑のネットワーク」の拠点を形成する必要性から、隣接する都営住宅の建替えに伴い創出された用地 1.1ha を、武蔵野中央公園の区域として拡張する都市計画変更が行われた。そこで、開園区域との整合性を図りながら、拡張区域の整備計画を策定するものである。

(3) 拡張区域の整備計画策定の方針

開園区域は、当時の住民意見を基に、最大限に広場空間を確保する計画としている。
拡張区域においても、当初整備計画の基本的考え方を継承しつつ、武蔵野中央公園に新たな魅力を付加し、より都民に親しまれる公園とするため、整備計画策定の方針を以下のとおり定める。

① 潤いのある大規模な緑の空間の創出

- ・開園区域の広大な原っぱを活かしながら、まとまりのある明るい樹林を創出し、利用者の憩いや休憩の場を提供する。
- ・武蔵野中央公園は西側の調布保谷線の道路の緑、北側の千川上水遊歩道、南側のグリーンパーク緑地といった緑の結節点に位置することから、多様な生き物の生息空間となる樹林を創出する。

② 防災機能の充実

- ・武蔵野中央公園および都営住宅、市役所周辺は広域避難場所に指定されており、災害時の避難、救助等の活動拠点として位置づけられていることから、樹林面積の拡大による避難者の安全性の確保や雨水浸透機能の向上など防災機能の充実を図る。

(4) ゾーニング計画

武蔵野中央公園は当初整備計画において次のゾーン及び主要施設が設定され、これに基づき整備、開園された。

ア	原っぱゾーン	：原っぱ
イ	スポーツ広場ゾーン	：スポーツ広場
ウ	施設導入ゾーン	：ゲートボール場、フィールドアスレチック、花壇、テニスコート等
エ	管理ゾーン	：管理棟、サービスヤード

【東京都公園審議会（昭和 63 年 6 月 21 日）】

整備計画策定の方針を踏まえ、今回計画地および西側に隣接する既存の植栽部分について、次のゾーンを設定する。

オ 樹林ゾーン

- ・緩やかな起伏を伴う明るい樹林の中での散策や休憩などが楽しめる憩いの空間とする。
- ・植栽は武蔵野の雑木林や屋敷林などを構成する樹木を主体に、花木などの彩りも考慮するほか、鳥類や昆虫類などの採餌、繁殖などに配慮した植物の導入なども検討する。
- ・樹林面積を拡大することにより、火の粉や飛来物から避難者の安全性を確保するとともに、園路や広場、便施設、休憩施設、管理施設のほか、防災井戸など避難者の滞在に必要な防災施設の導入を検討する。

The map illustrates the disaster prevention area around the University of Tsukuba, showing various zones and facilities. The zones are color-coded and labeled:

- スポーツ広場ゾーン** (Sports Field Zone): Light green area at the top.
- 原っぱゾーン** (Field Zone): Light green area in the center.
- 施設導入ゾーン** (Facility Introduction Zone): Light blue area on the left and bottom.
- 管理ゾーン** (Management Zone): Orange area at the bottom left.
- 樹林ゾーン** (Forest Zone): Red area on the right.

The map also shows the main entrance area (エンタランス広場) and various entrances (エンタランス) for pedestrians and vehicles. A scale bar indicates distances from 0 to 300 meters. A legend explains the symbols used for different types of areas and entrances.

樹林ゾーン

- ・緩やかな起伏を伴う明るい樹林の中での散策や休憩などが楽しめる憩いの空間とする。
- ・植栽は武蔵野の雑木林や屋敷林などを構成する樹木を主体に、花木などの彩りも考慮するほか、鳥類や昆虫類などの採餌、繁殖などに配慮した植物の導入なども検討する。
- ・樹林面積を拡大することにより、火の粉や飛来物から避難者の安全性を確保するとともに、園路や広場、便施設、休憩施設、管理施設のほか、防災井戸など避難者の滞在に必要な防災施設の導入を検討する。

種別	分類
— (Blue line)	供用区域
— (Red line)	拡張区域
— (Thick grey line)	メイン動線
— (Thin grey line)	サブ動線
⊗ (Star symbol)	エンタランス広場
▲ (Red triangle)	エンタランス (歩行者等)
▲ (Blue triangle)	エンタランス (自動車)

種別	分 類
	供用区域
	拡張区域
	メイン動線
	サブ動線
	エントランス広場
	エントランス（歩行者等）
	エントランス（自動車）

都立武蔵野中央公園 計画平面図

